

学校評価総括表 南幼稚園 平成24年度

平成24年度 学校評価総括表 南幼稚園	
教育目標	「豊かなことばをもち、友達と共に育ち合う子どもの育成」 ○自分らしさを發揮する子 ○チャレンジする子 ○のびのび、いきいきと遊ぶ子 ○仲間を大切にし、思いやりのある子
経営方針	・学校評価を基に教育活動の改善を図る ・研究を通して、教師の資質向上を図る ・一人ひとりの育ちを大切にした特別支援教育の推進を行う
本年度の重点目標	(1)主体的に活動する子どもが育つ保育を創造する (2)園と家庭、地域とが連携し合い、開かれた幼稚園教育を推進する (3)共に育ち合う特別支援教育を推進する
自己評価の総括	おおむね適切に園運営がなされていると考える。 アンケートの内容については南幼稚園ならではの項目を検討していく必要がある。

中分類	小分類	中分類の重点目標	自己評価結果	成果	課題	改善方策など	学校関係者の評価
(1)教育課程	①教育目標の設定	全職員の教育目標への参画 視点を絞った教育課程の見直し	4	3 3	自園ならではの教育課程について話し合えた。ねらいを視点にあてて自分の保育を評価することができた。	幼稚園でねらう子どもも親をもっと職員間で練り、24ヶ月を見通した教育課程の編成に計画的に取り組んでいく。	教育課程については幼児の実際の姿に応じ、年度途中に見直す機会を持つ。
	②教育課程の編成		3				
(2)学習・保育指導	①指導方法の工夫改善	子どもの自己表現を支える援助の工夫。 集団の中で思いを伝えあえる意図的な仕組み作りの工夫。	4	4	心を動かし表現しようとする姿に視点をおいて、幼児の内面をとらえたり、環境構成や援助を行う保育実践につなげることができた。	次年度も、心を動かし表現しようとする姿を支える教師の役割を探り、実践していく。	事例研究を重ね、教師の役割について、保育実践と照らし合わせて分析し、明らかにしていく。 研究の構想図をつくり、日々の実践と照らし合わせていく。
(5)安全管理	②安全指導の工夫改善	避難訓練を年4回実施 安全点検を月1回実施 降園指導を週1回実施	4	4	避難訓練を通して、職員の安全教育の検証の場となった。降園指導から幼児の降園する様子が把握でき、安全・事故防止の指導を行えた。	安全点検は月に1回実施するが、事後の話し合いを定期的に行えなかった。	安全点検後に職員間で危険な場所を共通理解し、話し合いをする。
(6)保健管理	①体力づくり	保健指導を月一回実施 計画的な運動遊びの実施 歩く経験を増やす	4	4 4	生活の実態に応じた保健指導を行い、幼児自身の自分の身体への興味関心に繋がった。 計画的に運動遊びを取り入れ、運動遊びに意欲的になった。 歩く経験を意識して取り入れ、健康な身体づくりに繋がった。	さらに教育効果をあげるため、幼児への保健指導にとどまらず、保護者へ啓発していく必要がある。 幼児の実態に合わせた具体的な運動遊びの計画を立て、職員間で話し合っていく。	幼児期に必要な生活習慣等について、保健だより、クラスだより、懇談等で啓発をする。 年間を通じて様々な運動遊びができるよう具体的に計画し、幼児自ら意欲をもって遊べる環境を作っていく。
	⑥健康な心身の育成		4				
(7)特別支援教育	③特別支援教育の推進	月一回程度、巡回指導や専門機関等、外部機関との連携 月一回、チューリップ便りを発行	4	4	支援の必要な幼児および保護者に向け、専門機関につなぐことで、より手厚い適切な支援につながった。 チューリップ便りで全保護者に向けて特別支援教育の啓発を行い、関心を得ることができた。	支援の必要な幼児および保護者に対し、適切な時期に、適切な支援につなげるコーディネート力をさらに高める。	特別支援教育コーディネーターを中心に、常に気になる幼児の実態把握、情報交換に努める。外部の様々な支援機関を職員全員、また保護者にも周知する工夫を行う。
(8)組織運営・情報管理	②校・園務分掌等の連携	園目標達成のための明確な方針 教職員の連携 個人情報の保護	4	4	自分の役割を意識し、責任を持って取り組むことができるようになった。 個人情報についての保護を意識できるようになった。	各担当者が、自分の役割を意識して、率先して園務に取り組むことができるようになる。	それが自分の役割を意識できるように、園務の中で推進の場をつくっていく。
(9)研修	①授業研究	心を動かし表現しようとする姿を支える教師の役割に視点をおいた園内研究会の実施	4	4	視点をしぼった園内研究会を通して、細やかに幼児の姿をとらえ、保育を振り返るよい機会となつた。 また、職員間で共通理解や学びの場となつた。	年間を通して、研修目的に応じた園内研究の計画実施と、視点を絞った園内研究の進め方を更に工夫する。	研究テーマとその共通理解、教師が学びたい具体的な内容を出すことから、実施時期、内容、目的を検討し計画する。目的に合わせ、研究保育の仕方を工夫しながら実施し、保育の質の向上に努める。
(10)保護者・地域との連携	①学校・園情報の発信	月1回クラスだより・年5回園長だよりの発行 ホームページ更新を通しての情報発信 月に一回程度、幼少連携の取り組みを行う。	4	4 4	便りやホームページでの発信により、保育内容や園の教育について具体的に伝えることができた。 小学校校庭、体育館等の場を保育活動に活用した。 小学校1年生と学期に一回程度交流を行つた。	ホームページは、タイムリーに更新していく。 幼小交流における互いの学びを確認し合い、事後の話し合いの場を設け、次に繋げていく。	ホームページ更新日を位置づけ、保護者に知らせていく。 幼小互いの学びにつながるよう、事前事後の話し合いの場を十分にもつ。
	④保幼小連携		4				
(11)施設・設備	①教育環境の整備	狭い園庭を有効活用する 園内環境を子どもの視点に立って見直す	3	4	園内全体が遊びの環境として、子どもの中に定着し、自分たちで変化させて遊ぶようになった。	子どもがどう環境とかかわっているのか、遊びを見取り、子どもの側にたつた環境作りを行う。	運動遊び・砂遊び・ままごとなど遊びを絞り、発展の仕方を見通して、計画的に環境を作る。
(12)子育て支援(幼稚園のみ)	③家庭・地域との連携	誕生会トークでの子育て相談の実施 保育後や休業中の園庭開放・絵本室親子貸し出しの実施	4	4	誕生会はどの保護者も必ず出席する会である。 この場を活用して話をしたことで、自分の子育てを振り返る機会となつた。	子育て支援の一環として、時期・時間・内容をもっと議論し、保護者にとって魅力のある内容にし、幼稚園から発信していく。	保護者に園庭開放や親子絵本室貸し出しについての意見を求める、よりニーズのある内容にしていく。
(13)人権教育	人権感覚を高める取り組み	月1回人権に視点をあてた絵本の読み聞かせ。 保育実践「ほほえみ」を活用して幼児の人権感覚を養う。 年1回人権をテーマとした保護者懇談会の実施。	4	4	視覚教材を活用することで、幼児にわかりやすく啓発を行うことが出来た。 保護者・教師共に身近な人権について考えることで、自分自身を振り返り人権感覚を養う場となつた。	人権に視点をあてた絵本の読み聞かせについては、各担任が時期に応じて行ったものの月一回の頻度には及ばず、職員間で意識しあうことが少なかった。	指導計画時に読み聞かせをする絵本を挙げ、月に一度人権図書を活用した絵本を読み聞かせる機会をもつ。

学校関係者評価の総括

幼稚園の子ども達は元気で表情がある。適切に園運営がなされているのではないか。 幼児教育の大切さを保護者により啓発していく必要がある。
次年度に向けた重点的な改善点
保護者や地域にわかりやすく情報を発信し、連携を深める。 保育の質向上のため、地域や保護者の評価を元に全職員で園運営に取り組む。